

試験時間 90分

注意事項 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。

2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

この世のありさまを理解し、私たち人間の由来するところをよりその深層においてとらえ、深く隠された新たな真実を明らかにしようとする人間の営為。そのような知的志向性のことを、ここでは「アカデミズム」と呼ぼう。

「アカデミズム」という言葉は、古代ギリシャにおいてプラトンがアテナ郊外に設立した学問の殿堂、「アカデミア」に由来する。爾来、西洋における学問はその雛形から大きな影響を受けつつ発展してきた。

アカデミズムは、今後どのように展開していくのだろうか？ 知がインターネット上に拡散し、次第に万人が無料で（自由に）共有するものになってきている今日、「大学」とか、「学会」といった組織においてアカデミズムを定義するのは不適切になってきている。

私自身は、アカデミズムを、「圧倒的な知の卓越」への志向としてとらえる。そのようにしてはじめて、より包括的な、高い知を求める人類の凄まじいまでの情熱、その無限運動の本質を指し示すことができるのではないかと考える。

美貌、富、名誉、およそこの世において、人々の欲望をかきたて、憧れを喚起するものは多くある。人は、正しいことよりも、自らが望むことをなそうとする。人の道になかったことがなされる時でさえ、それは、「正しいことを行う」ということが体が欲望の対象になった結果であることがしばしばである。

人がアカデミズムに憧れるのは、必ずしも立身出世を図ろうとすることではないだろう。知を自らのものにする喜び、人類がこれまで蓄積してきた叡智の上に、さらに自分なりのささやかな貢献をなしたいという願いの切なさは、万物の霊長たる人間という存在の根底にかかわる心理的機微である。

すぐれた知性を持つことほど、魅力的で「セクシー」なことがあるだろうか？ 「美は皮膚だけの深さしかない(Beauty is only skin-deep.)」と英語のことわざにいう。何事も見かけだけが優先されがちな現代ではあるが、知の卓越は、目に見えないからこそ、もしそれが本物であるならば人々を魅惑し、心を動かす力を未だ持っていると思いたい。

オリンピック競技会などにおいては賞品が与えられるのに、知に対しては何も与えられないのはなぜか？ ご褒美は、その対象になる行為よりも価値が高いものでなければならぬ。この世で、知ほど価値のあるものはないから、それに対して賞を与えることはできない。これが、プラトンの著作の中に残された古代ギリシャ人の考え方である。今でも、心ある人はアカデミズムに対して密かにそのような畏敬の念を抱いているのではないか。

日本では、一九八〇年代の「ニューアカデミズム」のブーム、バブル経済の狂乱を通して、知の意味が相対化され、真面目な探求が、時には「ネクラ」などと揶揄の対象とさえなった。結果として「知のデフレ」現象が進行し、「わかりやすさ」の競争が行われた結果、硬派の本が売れにくくなった。今日においても、マスコミに流通している情報の質から見ても、またいわゆる「売れ筋の本」の傾向から測る限り、日本の社会は未だにバブル期に前後した「知の崩壊」の後遺症から脱却していないようにも見える。

しかし、長い人類の歴史から見れば、近年の日本の傾向など、ごく短い時期の徒花に過ぎない。人間の脳が本来快樂主義的にできていることを考慮すれば、また、プラトンが『饗宴』の中で活写したように「真実を知ること」が人間の最も根強い願望であり快樂であることを考えれば、本格的な知への志向が日本においてこのままずっとやせ衰えたままではあるとは考えにくい。

(出典 茂木健一郎著「疾走する精神」中公新書)

問一 文章に合った20字以内のタイトルをつけなさい。

問二 アカデミズムの展開について作者はどのように考えているか250字以内で述べなさい。

問三 近未来において医学部に求められるアカデミズムの本質について、700字以内で論述しなさい。